



# 千南原

第11号  
昭和61年6月1日発行  
編集・発行  
藤枝市天王町1丁目7-1  
静岡県立藤枝東高等学校  
同窓会事務局



## 春四月 それぞれの船出

同窓会長 伊村隆恵

この外に降雪の多かった厳冬も過ぎ、春の訪れ桜前線の上陸を見る頃となりました。

春四月ともなれば若草の萌え出るように多くの人々の船出の季節でもある。特に青少年にとっては生涯への一節の門出でもある。

私の古い知人が焼津市に在るが少年時代から没落した生家の復興に懸命な精進努力をして遂に立派に家を再興した人がいる。その知人の玄関の額に『偉大なるものは風の中に育つ』の書が掲げてあるのを訪問の度に拝見し、まさに知人の歩んだ人生そのものだと感銘深く読ませてもらったが、わが母校も六十一年の歴史の歩みを一歩一歩と踏みかため歩み続け、今日藤東の名を挙げ、県下の名門校の一校と数えられるに至った。六十一年の歩みを回顧すれば枚挙にいとまないエピソードもあるが、何はあれ歴代の校長先生を初め諸先生方が創立当時の建学の精神「至誠」

を旨として生徒と共にスポーツに勉学に只管、向学の精神にもえながら前進進進と着々と地道に歩んだ結果が、今日実を結んだものと考える。

然し六十一年の歩みは決して平坦ではなかった。サッカーと言えは藤枝、藤枝といえは藤東と名声を挙げ得たのも、長い伝統と苦難辛の歩みの中に築かれたのであった。今春も大学進学の実績は県下の首位に並ぶ上位の成績である。これはひとえに三ヶ年間に亘って厳しい学業への闘いの勝利の超えた精進の賜であると思う。特に本年の高成績は一昨年を上廻り、然も質の高いものであると聞いている。

このような好成績は生徒の質の高いた優秀教員がそろって、先方もまた四月の声と共に今春も将来へ大きな夢と理想に燃えて三十一名の若者が船出をした。新同窓会員の入会を喜びと同時に、新会員が三ヶ



## 東高を去るに当って

前校長 鎌田 勝

ご縁があって、藤枝東高校に十五代校長として三年間お世話になりましたが、この三月末をもって定年退職いたしました。

その間、同窓会の皆様から暖かいご支援とご協力をいただき、いろいろとご迷惑をいたしました。特に、本校の六十周年記念として、校訓を象徴するモニュメント「誠の像」を学校に贈っていただき、私の理想を実現できました。これは、終生忘れ得ない感激でございます。又在任中サッカー部が県下優勝して、念願の国立競技場で大活躍してくれ

たことは、大変幸運であり嬉しいことでした。その節は、会員の皆様から、物心両面のご支援ありがとうございました。そして、一昨年には国立公立大合格が二六二人と一〇〇人を超える合格者を、今年四月からは、私学の藤枝明誠高等学校に勤務しております。創設四年目の若々しい学校を育成する責任を担って、何時かは東高に追いつく夢を見ながら、精一杯努力してみたいと思います。

東高がいよいよ充実発展するよう、又会員の皆様のご健勝を祈念して、お世話になったお礼のご挨拶とさせていただきます。



## 本校に再び着任して

校長 森 茂巳

昭和四十九年より五十六年まで教頭として勤務させていただきましたが、本年三月御勇退されました鎌田先生の後を受けて、十六代校長として再び着任いたしました。

五年前までの七年間、同窓会の方々にひとからならぬ御援助をいただいたことは忘れられぬ事であり、立派な歴代の校長に比して、器量、極めて小さく、御期待にそぐうことが出来たか不安ではありますが、以前と同様の御鞭撻、御叱正のもと全力を尽くすつもりであります。

校訓、至誠一貫、努力第一、精力集中を柱として教育実践に当り、六十有余年の本校諸実績を汚すことなく一層の発展、高揚に努める所存であります。昨今の教育は、知識の修得にのみ専念し、人間本来の姿を求めることを忘れがちであります。幸い本校の校訓は、これからの教育の指針としてまことに適切なものであり、先人の理念の時代を超えての識見には感嘆せざるを得ない思いであります。この

ことを職員、生徒一同と共によく認識し、温故知新の心構えをもって進む所存であります。昨今の教育はいろいろな問題を提起しております。戦後の知育偏重の教育の歪みはここに噴出しております。勿論、知育は大切であり立ちません。しかし、これのみであることが問題であります。

幸い本校の校訓は、至誠一貫、努力第一、精力集中となつておりますので、この三つを柱とすれば現状の克服は可能と信じます。先人の理念の、時代を超えての識見には感嘆せざるをえない思いであり、職員、生徒一同ともに校訓を再認識し、温故知新の心構えをもって、新しい激変する社会に生きる人間になることを目指し、同窓会の方々が宮々として築かれた、社会的評価を汚すことなく、一層、高めるべく精進するつもりであります。

終りに同窓会の皆様の従前にも増したあたたかい御支援と御協力をお願いして着任のご挨拶といたします。

## 同窓会基金 昭和六十年年度 決算及び事業について

### 募金なお継続事業に

昭和五十二年二月、同窓会臨時総会において決議され、五ヶ年計画のもとに進められてきた同窓会基金活動は、会員各位の深いご理解と協力により、二千五百七十七千円に達しました。この基金の利息を運用して、母校の部活をかりて御礼申し上げました。

昭和六十年年度同窓会特別会計 (基金利息) 決算

基金総額	二〇、五二七、〇〇〇円
歳入予算額	二、五七四、八八五円
歳入決算額	二、五七四、八八五円
歳入決算額	二、五三六、五二二円
歳入歳出引当高	二、二一六、五二二円
歳入の部 (決算のひ)	
繰越金	一、四九九、八八五円
利息収入	一、〇三六、六三六円
計	二、五三六、五二二円
歳出の部	
運動部後援費	一〇〇、〇〇〇円

昭和五十二年二月、同窓会臨時総会において決議され、五ヶ年計画のもとに進められてきた同窓会基金活動は、会員各位の深いご理解と協力により、二千五百七十七千円に達しました。この基金の利息を運用して、母校の部活をかりて御礼申し上げました。

昭和六十年年度同窓会特別会計 (基金利息) 決算

基金総額	二〇、五二七、〇〇〇円
歳入予算額	二、五七四、八八五円
歳入決算額	二、五七四、八八五円
歳入決算額	二、五三六、五二二円
歳入歳出引当高	二、二一六、五二二円
歳入の部 (決算のひ)	
繰越金	一、四九九、八八五円
利息収入	一、〇三六、六三六円
計	二、五三六、五二二円
歳出の部	
運動部後援費	一〇〇、〇〇〇円

## 母校奉職 三十七年

前教頭 池谷利之

私は、この三月末日をもって退職しました。昭和二十四年から三十七年の長い間、母校にのみ勤務できたことは、私にとってこの上ない幸せであります。志太中時代の五年を加えると四十二年になり、いままでの六十一年の人生の七割も母校にかかわりあったことになり、藤枝東高は私にとって大きな存在になっております。

勤め始めた頃といえは、終戦後まだ日が浅く、二十四年には下山事件や三鷹事件が起こったり、二十五年にはレッドパージの嵐が吹くなど、世情がまだ定まらない時代でありました。

母校には、中学時代の恩師がまだ多数残っており、同窓の諸先輩もみえられて、私はこれらの方々に温かくて厳しい御指導を受け、なんとかひとりで立ち度できるようになりました。

三十七年間の思い出は、数え切れないうれしやありますが、特に、四十六年と四十七年の二年間に渉るサッカー部長時代のことが印象深く思い出されます。この二年間のうち、全国総体には二回出場して全権には一回出場して準優勝と、輝かしい成果でした。勿論、これも同窓会をはじめ各方面の皆様の御協力の賜と感謝いたします。

また、四十年前後のことですが、大学合格者の数をもっと増やすにはどうしたらよいかと、校長以下全職員が一丸となって取り組んだ熱い雰囲気は、いまでも懐かしく思い出されます。

さて、同窓会事務局、サッカー部長、教頭としてその役目柄、同窓会の諸会合に出席することが多くなるに従って、同窓会の重要性と共に会長さんをはじめ皆様の御苦勞を身近に感じました。いまや、歴代の校長、教職員の方々の結果であることが、同窓会の皆様に負う所も大きいと思っております。

私は、藤枝東高の色に染まり、香に染みて母校を去りますが、まだ「千里無何に入る」の心境にはとまなれません。今後とも御指導をよろしく願いたします。

(志太中第十五回卒業)

## 千南原を去るに 当って

前定時制教頭 萩原 修藏

P.T.A、同窓会、後援会、職員生徒の皆様方、陽春を迎えてお元氣のことと思います。私は去る三月三十一日、関係の皆様方から心の温かいお言葉をいただき盛大に送別会に新たな感激を身にしみて感じながら三十八年間の教員生活を終えました。

思えば、昭和十三年、旧制十五回生として日支事変の拡大する時代でありましたが文武両道の精神にもとづいて同級生とともに、勉強に精進し、部活動に汗を流したことが今更のように思い出されます。

そして四年後、母校へ新人教師として努めました。時代は、大平洋戦争後の二十三年で衣・食・住とも大変苦勞し、世の中大変不安定でありましたが、数名の生徒をのぞいては、勉強にも部活動にも大変意欲的で、生徒とともに勉強し、生徒とともに部活動に汗を流し、教師というよりは先輩という感じがしております。

この新米教師の三年間には恩師の山田良一、小宮山宏、藤井謙一先生(藤枝市教育長)、曾根雄光先生(桜井久夫先生(明誠高)から先輩教師のお力ぞいで同級の池谷利之教頭とともにのびのびとした、何のストレスもない教員生活で、生徒とともに生活した若き教師の千南原の強い思い出であります。

その当時の教員たちも、すでに五十一、二才から五十四、五才になり、日本の各地で活躍して折に引かれて手紙をくれたり、夜に巻に引かれてきて杯を交わす喜びを与えてくれました。

その後、静岡附中、島田高、中部教育事務所、清水東高と三十三年間の武者修業をし五十九年四月母校の定時制に最後の任地として着任しました。母校で教員の最初と最後を勤め得たことは私の幸福であり、幸運でありました。定時制での教育は、ただただ、事故をなくせ、出席させ一人ひとりの伸長を願う、藤枝東高の卒業生の一員となることに自覚をもたせたいと願いました。が、なすことなす二年間がすぎ退職することになってしまいました。関係諸団体のご協力と、人徳のある鎌田校長先生、同級の池谷教頭のお力ぞえ、全職員の方々の温かい御厚情に謝し、母校の益々の発展と関係諸団体のご隆昌、諸先生のご健康を祈り上げます。

(志太中第十五回卒業)